

重点取組分野	令和 元 年度		総括	重点取組分野	令和 2 年度		総括	重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①重点研究において「自分づくりに関する力」を育成を目指す。②教科の特質に応じて育成を目指す資質・能力を意識し、授業を通して教科等横断的な視点で本校らしい教育課程を編成する。③問題解決に向けての学び合いを大切に、各教科のカリキュラムにのっとり基礎・基本の定着を目指す。	①重点研の取組の中で「自分づくりに関する力」についての職員間での共通理解が深まった。②教科等横断的な視点に立った教育課程を編成することができた。但し、行事等の実施時期の見直し・変更に伴う教育課程の修正を次年度の初めに行う。③各教科において着実に取組が進められた。	A	生きてはたらく知	①重点研究において「自分づくりに関する力」を育成を目指す。②教科の特質に応じて育成を目指す資質・能力を意識し、授業を通して教科等横断的な視点で本校らしい教育課程を編成する。③問題解決に向けての学び合いを大切に、各教科のカリキュラムにのっとり基礎・基本の定着を目指す。	①研究を通して、各ブロックで重点指導する資質能力として設定した「自分づくりに関する力」の育成に取り組み、各学級で一定の成果が見られた。②「自分づくりに関する力」を根拠にして教科等横断的に教育課程を編成することが大切ということ職員で共通理解することができた。③学習形態に限られた中で、課題設定を工夫し、解決に向けて学び合う姿が見られた。基礎・基本の定着には、語彙の獲得と伝える力の育成が必要であることが分かった。	A	生きてはたらく知			
豊かな心	①異学年交流を通して他者を大切にする心や協力する心を育て、集会や行事にも縦割り班活動を取り入れ違いを認め合える人間関係を育成する。②児童の実態に合った道徳の授業づくりとカリキュラムの改善に取り組み、自尊感情の向上を図る。	①例年行っている縦割り班で行う全校遠足に大きな見直しを加えた他、集会等においても改善を進めた。②授業やカリキュラムの改善を学校全体で進めていくための手掛かりとして、重点研において道徳の授業研究会もを行い、成果や課題を職員全体で共有することで、児童の自尊感情の向上を図った。	A	豊かな心	①異学年交流を通して他者を大切にする心や協力する心を育てる。集会にも縦割りの要素を取り入れ、違いを認め合える人間関係を育成する。②児童の実態に合った道徳の授業づくりとカリキュラムの改善に取り組み、自尊感情の向上を図る。	①縦割り活動では、ペア学年活動を通して上学年が下学年に思いやりをもって接する姿が見られた。集会では、他学年のよさを認め合える活動を取り入れた。②授業やカリキュラムの改善を学校全体で進めた。ふりかえりの時間を充実させ、お互いを認め合う機会を設定し、児童の自尊感情の向上を図った。	A	豊かな心			
健やかな体	①小雀体操を通して強しなやかな身体づくりに取り組み、継続的な運動と生活習慣の定着を図る。②一校一実践として、長縄跳びに力を入れ、長縄週間やマラソン週間でクラスで協力して運動に取り組み体力の向上を図る。さらに、家庭や地域との連携も推進する。	①小雀体操を考案した専門家による児童への指導を学校保健委員会で行い、体操のそれぞれの動きに対する児童の意識が高まった。②長縄「週間」を長縄「月間」として行った。長期間にわたり児童の意欲を毎日、全校的に運動量を確保することができた。	B	健やかな体	①小雀体操を通して強しなやかな身体づくりに取り組み、継続的な運動と生活習慣の定着を図る。②一校一実践として、長縄跳びに力を入れ、長縄週間やマラソン週間でクラスで協力して運動に取り組み体力の向上を図る。さらに、家庭や地域との連携も推進する。	①委員会活動の一環で小雀体操に親しむことができた。また、外に出て運動する習慣を身に付けることに繋がっている。②コロナ禍で長縄やマラソンに取り組むことができなかったが、委員会による短縄習慣により体力向上を図ることができた。年間を通じてコロナ禍で継続した運動への取組を考えていく必要がある。	B	健やかな体			
公共心と社会参画	①学校行事や地域行事に一人ひとりが目標をもって主体的に参加できるようにし、社会や集団の中で自分の役割を意識して活動することで自己有用感を高める。②まちや社会とのつながりを大切に、人との出会いを通して夢や希望をもてる自分づくり教育を推進する。	①・②本校創立50周年の活動でも子どもを主体とし、まちや社会、出合いを意識した取組を進めた。家庭・地域対象の学校評価では、本校児童が学校・地域行事で自分の役割をもち主体的に活動しているかを尋ねた質問に対して、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」が80%以上となる回答を得た。	A	公共心と社会参画	①学校行事や地域行事に一人ひとりが目標をもって主体的に参加できるようにし、社会や集団の中で自分の役割を意識して活動することで自己有用感を高める。②まちや社会とのつながりを大切に、人との出会いを通して夢や希望をもてる自分づくり教育を推進する。	①②例年通りの活動が難しい状況の中、対応準備を進め4～6年の宿泊的行事や運動会、音楽会を実施するとともに、学校から地域の方への文書に本校児童のメッセージも一緒に添える取組を行うなどし、子どもが自分の役割を意識して活動する場面を設定した。例年同様に子どもの自己有用感を高めることができた。	A	公共心と社会参画			
児童生徒指導	①小雀小スタンダード等、全教職員が指導方針を共有し一貫性のある指導で規範意識の向上を図る。②問題の未然防止や早期発見・対応のため、児童支援専任を中心に迅速な情報共有と組織的対応を行う。また、カウンセラーやSSW、関係機関との連携を密にし、家庭への支援体制の充実を図る。	①一貫性のある指導を行う上での問題や課題についても全職員で目を向け、その解決に努めるようにすることで、年間を通じて児童の規範意識の向上を図ることができた。②児童指導専任を中心とした積極的な対応・連携により、難しい事案においても可能な限りの対応をとることができた。	A	児童生徒指導	①小雀小スタンダード等、全教職員が指導方針を共有し一貫性のある指導で規範意識の向上を図る。②問題の未然防止や早期発見・対応のため、児童支援専任を中心に迅速な情報共有と組織的対応を行う。また、カウンセラーやSSW、関係機関との連携を密にし、家庭への支援体制の充実を図る。	①一貫性のある指導を行う上での問題や課題について全職員で共通理解し、その解決に努めるようにすることで、年間を通じて児童の規範意識の向上を図ることができた。②児童指導専任を中心とし組織として積極的な対応・関係機関との連携により、難しい事案においても可能な限りの対応をとることができた。	A	児童生徒指導			
特別支援教育	①研修や授業研究会を通して特別支援教育の理解を深め、すべての児童が安心して学習できるように、授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。②個別の指導計画や教育支援計画を作成し、校内委員会で適切かつ継続的な支援を検討し実施する。	①本校でのこれまでの蓄積により、年度替わりや年度中の担任交代があっても、児童にとって継続的な指導や支援を行うことができた。②作成された個別の指導計画や教育支援計画を校内委員会で精査・修正することで、それぞれの児童への支援を、より適切かつ継続的なものとした。	B	特別支援教育	①研修や授業研究会を通して特別支援教育の理解を深め、すべての児童が安心して学習できるように、授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。②個別の指導計画や教育支援計画を作成し、校内委員会で適切かつ継続的な支援を検討し実施する。	①年度替わりや年度中の担任交代があっても、児童が安心して学習できるような継続的な指導や支援を行うことができた。②作成された個別の指導計画や教育支援計画を精査・修正し、それぞれの児童への理解を通して、より適切かつ継続的な支援をした。	B	特別支援教育			
地域連携	①地域コーディネーターの役割を理解し、地域ボランティアとの協働の充実に向けて連携体制を構築する。②ボランティアとの協働や児童の学びの様子を授業参観や学校だより・学校HPで発信する。③50周年実行委員会を学校・保護者・地域が協力して行い、まちとともに創る50周年記念行事とする。	①地域コーディネーターとの連携体制を構築し、設置準備中の学校運営協議会の構想のぞきに具体的に組み込むことができた。②それぞれの手段・方法による発信を積極的に行った。③当初・事前想定した以上の形で、地域と連携した創立50周年記念行事を遂行し、大きな成功を収めた。	A	地域連携	①地域コーディネーターの役割を理解し、地域ボランティアとの協働の充実に向けて連携体制を構築する。②ボランティアとの協働や児童の学びの様子を授業参観や学校だより・学校HPで発信する。	①地域コーディネーターとの定時会議をし、学校とコーディネーターとで連携を図りながら児童の学習を支援していただき学びの視野を広げられた。②年4回行っている「チュンチュン漢字チャレンジテスト」と関連して地域と学校の子どもたちと共に漢字検定を行い、学ぶ場所の提供をすることで地域連携を深める一歩につながった。	A	地域連携			
教育環境整備	①毎月の安全点検を確実にし、安全・安心な環境整備に取り組む。②校舎や施設の老朽化に伴う施設改善に計画的に取り組むことで、学習環境・生活環境の継続的な充実を図る。	①毎月の安全点検を手がかりに、そこから視野を広げた安全・安心な環境整備を進めることができた。②年度当初から、老朽化に伴う施設の改善・改修に積極的に取り組んだ。特別支援教育と連携したユニバーサルデザインの見地に立った改善・改修も進めることができた。	A	教育環境整備	①毎月の安全点検を確実にし、安全・安心な環境整備に取り組む。②校舎や施設の老朽化に伴う施設改善に計画的に取り組むことで、学習環境・生活環境の継続的な充実を図る。	①毎月の安全点検から不具合のある箇所を把握し、環境整備を進めることができた。②計画的に老朽化に伴う施設の改善・改修に取り組んだ。感染症対策のための環境整備も進めることができた。	A	教育環境整備			
いじめへの対応	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の迅速な対応と丁寧な経過確認を行うことで再発防止に努める。②いじめ防止研修を行い、全教職員がいじめに対する意識を高めるとともに、定期的な児童アンケートとYPの実施により些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。	①必要に応じ、臨時のいじめ対応防止委員会をもち、いじめの未然防止と早期対応、再発防止に努めた。②児童アンケートやYPの読み取り・分析を、全職員が同じ場所で同時に取り組むようにし、疑問点が生じた場合にも学級・学年を超えた情報交換を行い、微妙な変化も的確を見取ることができた。	B	いじめへの対応	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の迅速な対応と丁寧な経過確認を行うことで再発防止に努める。②いじめ防止研修を行い、全教職員がいじめに対する意識を高めるとともに、定期的な児童アンケートとYPの実施により些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。	①定期的にいじめ対応防止委員会をもち、いじめの未然防止と早期対応、再発防止に努めたり、必要に応じて臨時いじめ防止委員会を開き、迅速な対応と丁寧な経過確認を行い再発防止に努めたりした。②児童アンケートやYPの読み取り・分析を、全職員で取り組み、疑問点には学級・学年を超えた情報交換を行い、微妙な変化も的確を見取ることができた。	B	いじめへの対応			
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム研修にアドバイザーとしてミドルリーダーや主幹教諭等が関わった研修を行う。②定期的に教務会や学年主任会を行い、ミドルリーダー等が学校全体に視野を広げ、見直しをもって学校運営に参画する場を設定する。③グループウェア等を活用して情報の共有化を図るとともに、職員室アシスタントの活用で印刷等の事務的業務の軽減を図り、働き方改革につなげる。	①特に、ミドルリーダーによる研修が主体的、意欲的に進められた。授業実践を伴った研修も多く、授業改善の見地から大きな成果があった。②教育課題解決のために教務会と学年主任会が連携して機能する校内体制を築くことができた。③職員室アシスタント導入1年目として、次年度につながる実績ができた。	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム研修にアドバイザーとしてミドルリーダーや主幹教諭等が関わった研修を行う。②定期的に教務会や学年主任会を行い、ミドルリーダー等が学校全体に視野を広げ、見直しをもって学校運営に参画する場を設定する。③グループウェア等を活用して情報の共有化を図るとともに、職員室アシスタントの活用で印刷等の事務的業務の軽減を図り、働き方改革につなげる。	①コロナ対応をとりつつ授業実践を伴う研修を行い、授業改善に向けた取組を進めることができた。②昨年度構築した校内体制2年目の今年度は、教務会や学年主任会が十分機能し、学校運営にミドルリーダーの力が一層発揮されるようになった。③職員室アシスタントが、欠くことのできない校内組織として機能している。	A	人材育成・組織運営(働き方改革)			
ブロック内評価後の気づき	・創立50周年の様々な取組も含め、学習指導、および、生活指導のどちらの面においても、同じ方向性で一貫性のある全校的な取組がなされている。 ・廊下や階段の掲示物が、異学年交流を推進・発展していく内容で、計画的に構成されている。 ・清掃や掲示物、設置物などの廊下や階段を含めた校内環境が、よく整えられている。 以上のような評価・意見や、ブロック内の相互評価において受けた。児童への指導・支援や環境整備についての職員間での共通理解が、進展・定着してきたことの一つの現れと考える。		ブロック内評価後の気づき	・新型コロナウイルス対策を十分意識して学習が進められている。校内の環境整備も、コロナ対応の視点から見てよく行われている。 ・異学年交流や委員会、クラブ活動がコロナ禍の中においても工夫されて進められていることが、廊下や階段の達達関連の掲示物等から伝わってくる。 以上のような評価や意見を受けた。例年にはない様々な制約の中、本校職員が一致協力して職務にあたったことが他校の職員にも認められたものとする。		ブロック内評価後の気づき					
学校関係者評価	学校評議委員会では、児童の落ち着いた学習態度や、子ども一人ひとりを大切にされた教員の指導・支援に高い評価を受けた。また、成功裏に終わった創立50周年記念事業に関する一連の取組に関しても、地域との連携や協働も含めて、非常に好意的な感想や意見をいただいた。学区地域としては、現状の維持を強く学校に望んでいることがうかがわれた。本校としては、児童の主体性や自己有用感、自分づくりに更に進めていく上で、学校生活や学習の基礎となる基礎・基本的な学力の向上が今後の課題であると考えており、この点について、学区地域の理解や協力を得られるよう図っていく。		学校関係者評価	学校評議委員会では、まずコロナ禍の中で可能な限り学校行事を実施したこと高い評価を受けた。また、コロナ対応を行いながら進められた教科学習を初めとする平常の教育活動や、地域と連携して行った学力向上のための取組についても高い評価を受けた。コロナ禍の中で学校や職員が行った各種対応や工夫などについては、より積極的に保護者に伝えていくべきとの意見もいただいた。コロナ対応のため仕方ないことであるが、学校を見る機会が例年に比べると少なかったため、評価を求められても評価しにくい部分があったとの意見が受けて、次年度は保護者や地域の方が学校を見る機会が増えるよう図りたい。		学校関係者評価					
中期取組目標振り返り	3年スパンの中期学校経営方針の1年目である今年度は、よい形でスタートを切り、2年目である来年度につなげることができたと考える。特に今年度は本校創立50周年という大きな節目を迎え、50周年に関する様々な取組を遂行したが、それらの活動の中においても中期取組目標に迫ることができ、大きな成果・自信となった。一方、基礎・基本的な学力の向上や、さらに効率的に機能する校内体制・組織の構築等は、今後も取り組むべき課題となっている。本校が創立以来の50年間で培ってきたものを失わずに、上記の課題を解決していかための方策を、残された時間の中で検討、具現化していく。		中期取組目標振り返り	昨年度設定した中期学校経営方針の2年目である今年度は、昨年度から開始した各種の取組が着実に成果をあげた。特に、新型コロナウイルスへの対応を取りながら学校行事や児童間の関わりのちを工夫することで、子どもが自己有用感を高めた点において、職員の力が発揮された。ただし、学校行事も含めた教育活動が昨年度に見込んでいたものとは大きく異なる形で今年度行われ、また、それが次年度にも引き続くものと考えられるので、次期中期学校経営方針の内容や在り方についても考慮しつつ、3年目(まとめ)の取組を進めていく。		中期取組目標振り返り					